

時代を超えて受け継がれる



渋沢栄一翁 (渋沢史料館所蔵)

当社の前身である京阪電気鉄道(株)は、日本最初の銀行である第一国立銀行を設立し、「日本資本主義の父」と呼ばれた渋沢栄一翁を創立委員長として1906(明治39)年11月19日に産声をあげました。千年の王城「京都」と商都「大阪」を、京街道沿いに町や村をつないで鉄道を敷設するというプロジェクトは、事業性自体が有望であったのに加え、地域社会の発展にも寄与するという高邁な思想に基づくものでした。

渋沢栄一翁の経営哲学は、ただひたすら私利私益のみに走るのではなく、公利公益も考え、他人の幸せのためにも力を尽くすのが本分だと唱えた「道徳経済合一説」に集約されます。当社グループのあゆみは、創業者の精神をグループ全体で受け継ぎ、社会とともに発展してきた歴史であり、その精神は現在、「経営理念」として明文化・共有しています。今後さらなる激変が予想される社会・経済環境下においても、創業精神、そして「経営理念」を起点として社会に価値を提供し続け、社会とともに持続的に発展していくことを目指していきます。

1906

京阪電気鉄道(株)創立

1910

京阪電気鉄道(株)開業
(大阪・天満橋駅—京都・五条駅)



第1回菊人形を
香里園で開催



1968

くずはローズタウンの第一期分譲を開始



1985

京阪百貨店守口店開業



1926

バス事業への本格参入



戦後の高度成長を支える 経営の多角化

急増する沿線人口の移動・住宅ニーズを背景に、鉄道の輸送力増強や住宅開発を本格化。京阪本線の淀屋橋延伸により、大阪都心へのアクセス向上も実現した。賃貸ビル事業も本格的にスタート。また、ビジネスホテル・百貨店事業への進出や観光船をはじめとするレジャー施設の充実など、高度経済成長を経営の多角化で支えた。

1979

ホテル京阪大阪(現天満橋)開業



創業と積極経営

京阪間の輸送力不足を解消し、地域の発展に貢献すべく、大阪・天満橋から京都・五条までの鉄道事業を開始。急行電車の運転や色灯三位式自動信号機の導入などにより、利便性・安全性向上に努めるとともに、旅客誘致に向け、菊人形の興行も開始。沿線発展などの観点から、学校のほか成田山大阪別院の誘致も行った。バス事業への参入など、事業の多角化、エリア拡大にも積極的に取り組んだ。

連結営業収益
(百万円)

350,000

300,000

250,000

200,000

150,000

100,000

50,000

1,000

1910 1949 1950 1955 1960 1965 1970 1975 1980

※1976年度以前は京阪電気鉄道(株)単体の営業収益

創業精神

2016

京阪淀ロジスティクスヤード開業



次の100年に向けて

前中期経営計画「創生果敢」のもと、人口減少など厳しい経営環境下でも成長し続ける企業グループを目指し、持株会社体制へ移行。4つのコア事業の強化とともに、創業以来の原点である沿線価値向上、急増するインバウンド市場の取り込み、お客さまの「くらしの価値」を高めるコンテンツ創造に取り組んだ。本年5月には、2050年を見据えた新しい経営ビジョンと、その実現に向けた中長期の戦略からなる「京阪グループ長期戦略構想」を策定。社会が大きく変化する中であってもさらなる成長を遂げ、社会から必要とされる企業グループとしてあり続けるため、チャレンジを続けている。

2008

中之島線(天満橋駅-中之島駅)開業



2017

「KYOTO TOWER SANDO」開業



2018

枚方市駅リニューアル推進



事業の再構築から
新たなる成長へ

バブル崩壊後の景気低迷など、激変する経営環境に対応するため、「京阪グループ新生計画 Re-Born21」において不動産ビジネスモデルの転換を図るなど、事業の再構築に取り組むとともに、「大きくてよい会社」を目指し、経営ビジョン「「選ばれる京阪」への挑戦」を制定。中之島線開業による関西経済活性化への寄与や「KUZUHA MALL」開業による沿線価値向上に加え、首都圏でのホテル出店など、沿線外での事業展開も強化していく。

座席指定の特別車両「プレミアムカー」導入



総旅客数(京阪電気鉄道株)
(万人)
45,000

連結営業収益

総旅客数

1998

京阪東ローズタウン マンション
「ファインガーデン」の分譲を開始



2005

「KUZUHA MALL」グランドオープン



1985 1990 1995 2000 2005 2010 2015 2017 (年度)